



游能

今人五百類三編

秋

~ 5
4122
3



秋目一

草市	廿四	魂糸	廿四	初棚	廿四	棚燈	十五
暮糸	十五	生月記	十五	備	十五	西以	十六
花火	十六	冬の月	十七	残月	十七	秋星	十七
角力	十六	秋風	十六	忘扇	十九	初雪	二十
象	二十	霧	廿一	二百十日	廿二	稲妻	廿二
羽分	廿三	受縮	廿三	辰粒	廿三	刈田	廿三
竹香	廿三	初以	廿三	ハ粒	廿四	初葉	廿四
放生	廿四	辻家	廿四	鳴子	廿五	引板	廿五
焼帛	廿五	栗山子	廿五	冬おし	廿五	落石	廿六
温帖	廿六	辰粒	廿六	初粒	廿六	崩山梁	廿七
河原	廿七	沙魚	廿七	鱸釣	廿七	柚味噌	廿七
新法	廿七	新蕎麦	廿七	新米	廿七	砧	廿八

朝會	廿八	初會	廿九	初會	廿九	冷夕	廿七
夕入	三十	新酒	三十	中汲	三十	花巻	卅一
秋の虫	卅一	秋の雲	卅一	秋の音	卅一	秋の夕	卅二
柿	卅二	若葉	卅二	秋の水	卅二	秋の山	卅三
秋の壁	卅三	秋の雨	卅三	露時雨	卅三	九月尽	卅五
行秋	卅五						
一葉	卅四	夏柳	卅五	草花	卅五	女郎花	卅六
木槿	卅六	葛花	卅七	嵐尾草	卅七	藤袴	卅七
朝鳥	卅七	芙蓉	卅八	秋海棠	卅八	我木香	卅九
萩	卅九	萩	四十	若葉花	四十	唐辛	四十
糸瓜	四十	瓢	四十	蘭	四十	蓮実花	四十

秋目二

芭蕉	四十一	花笠	三	桔梗	三	芒	四十二
紫苑	三	牡丹	四	芍药	四	菊	四十四
万葉	四	稻	五	稻花	五	芦花	四十六
菊	六	未枯	六	鳥爪	六	葛	四十八
梅姫	六	龍膽	六	めうこ	六	芋	四十九
雀麦	九	木交	九	椎	九	木の子	四十九
松茸	十	初茸	十	葎	十	栗	五十
总栗	十	熟枲	十	色之ぬね	十	芋のぬね	五十
初紅糸	十	紅糸	十				
生	生	秋の浮	五十四	秋の管	五十四	秋の蝶	五十四
虫	五十三	曹	五十四	養	五十五	茶豆	五十五
松	五十四	曹	五十四	養	五十五	茶豆	五十五

秋目百八十八歌

蜻蛉	五十五	蟬	五十七	夕立	五十六	宿馬	五十六
木啄	五十九	雁	五十九	鶉	六十	鶉	六十
行楽	六十一	竹吹	六十一	鹿笛	六十一	鹿	六十二
秋朗詠	六十三						
蜻蛉	五十五	蟬	五十七	夕立	五十六	宿馬	五十六
木啄	五十九	雁	五十九	鶉	六十	鶉	六十
行楽	六十一	竹吹	六十一	鹿笛	六十一	鹿	六十二
秋朗詠	六十三						

名月やあの中ゆくあの新
 名月ふれゆくあの新
 橋入る名月まつや門の川
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ

芝南
 友南
 古山
 素交
 志魯
 二瓢
 西池
 西窓
 の簫
 其翼
 元史
 桐海

今日
乃月

名月や形のあたる様をよけ
 名月や華乃さくの雲らうり
 名月や像もさりの人の新
 名月も交しあひやまき
 斤所もさる名月の戸口ま
 名月や尋さるる名月の附花
 名月の新の秋らうり
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ
 名月やゆきし雲さだの雲のあ

時静
 去子
 双鳥
 大乃
 一具
 乃山
 牙流
 松花
 松花
 松花
 松花

八月
廿日

月今宵

入あろせをまつてさるの月
 かきりふさしあけうわのやうの月
 ころの月風ち地ちあつさうりさうり
 せいのるまじあはれしころの月
 さうし風さやまふちりさうの月
 山の清ゆきしりさうの月
 待えさう甲斐ちる月やうふの月
 神やうし牛のたさや月今宵
 信人ふとりしう終し月今宵
 けしきもせよさうさう月今宵

月
松
霧
山
山
山
霧
丸
あ
山

各月雨

秋

乃月

よきころのりんそやるの月
 船もさういれさういせん乃月
 さうれいあささうさう秋の月
 あまの月ゆきさうさう乃月
 橋の日はさうさう乃月
 うさあさういあさう乃月
 まさなもさうさう乃月
 いつのねさうさう乃月
 さうさうあさう乃月
 さうさうあさう乃月

大
松
山
霧
山
山
山
霧
丸
あ
山

月

新しき月をかりしなる節
 多き時やあるやまは 朝月お
 たりし中月ふいけの亭子山
 家くやきくさし月の宿ま竹
 むらさくハ西へあけし山の日
 林はふさふさハ伸て月お春
 糸おさくおさく秋の月の夜
 川 泉や林はあけしき甲の月
 太極くくわとくはく月のお
 藤よりてはくおかり月のお
 都く田く月おさく山路くふ
 秋より 朝おさくさる月の氣

松竹
 山方
 邊字
 柿塚
 むらさ
 大莫
 菅丸
 羽羽
 元史
 唐書
 思風
 小龍め

月

月

林のうけや月を照のそあうら
 音さけきふと林とやうの月
 柳さくらをゆつり言うり月の友
 比さるる月の中や樹乃氣
 清月やかりしん清さきま
 等きくやあけし山の日
 いより清月の中やま年
 東舟やまきさくさく月の人
 吉おさくや志さく月のてまらり
 百くしのき林や月おさく流川
 清ら流の裾さるるや月の影
 てる月や度お清るる坂さき

漫氏
 如醉
 昇祀
 山子
 不深
 厚尾
 露原
 月香
 清言
 山

見 月

月を眺みしてまの月の月らん
火の燈をいほおかけの月らん
山うけの穂しほろまの月らん
月おてし月らんわや山乃寺
まの月の月らん寺のつゝ月らん
輝きふんをまの月の月らん
まの月の月らんおの月らん
半ひんをまの月の月らん
酒舟のつゝと料おの月らん
山やうとまの月の月らん
おの月の月らんおの月らん

一 具
鳥 外
源 久
市 泊
白 羽
菊 儀
槩 外
阜 郎
山 方
香 月
乃 山

初 月

11月

初月の月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん
初月の月らんおの月らん
おの月の月らんおの月らん
二葉まの月の月らん
初月の月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん
水うけの月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん
まの月の月らんおの月らん

山 年
初 月
お 山
言 丸
三 冠
市 底
や 山
一 具
南 那
阜 郎
一 具

三日
月

待
宵

三日月もあはれぬら谷のあはれ
 三日月やあはれぬら谷のあはれ
 下まのあはれぬら谷のあはれ
 三日月やあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ
 三日月のあはれぬら谷のあはれ

本 藤
 石 匠
 赤 心
 貞 之
 外 夫
 大 英
 淡 島
 乙 官
 相 溪
 為 介
 未 末

十六
夜

十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ
 十六夜やあはれぬら谷のあはれ

山 子
 下 古
 友 耕
 市 川
 石 松
 山 安
 九 之
 源 岩
 古 乙
 多 之
 古 之

九月

初秋

おふらふらふし 小ぢくともつ 葉月夜

又 翠

きんこのふきそく 九月 九月 九月

吉年 他者 不詳

初秋のひより さくらさくら 音あられ

中 橙

さら 秋の おく入る なる なる

社 所

初秋 中 階より せは せは せは

之 楓

初秋 や 子の中 へ へ へ

芦 渥

さ 川 秋 の とも お や 牛 馬 と 鳴 り け

兮 裁

初秋 や 野く せきり への への

乃 山

立

秋

秋 ころ や ねふ ころ つる 空の 海 音

白 鷗

立 秋 や へ へ へ へ へ へ へ

双 鳥

秋 立 や 田よ へ へ へ へ へ へ へ

以 見

きの へ へ へ へ へ へ へ

中 吟 歌

へ へ へ へ へ へ へ

味 金

秋 立 や 木 へ へ へ へ へ へ へ

吳 酒

秋 ころ や 屋 上 へ へ へ へ へ へ へ

昔 角

秋 立 や ね へ へ へ へ へ へ へ

心 女

栗 木 の 枝 や へ へ へ へ へ へ へ

梅 葉

あ きの ころ や へ へ へ へ へ へ へ

石 指

秋 ころ や 畑 へ へ へ へ へ へ へ

巴 洞

戸 口 へ へ へ へ へ へ へ

朴 家

今朝の秋

さし〜と 林の〜ち〜り 樹の介
あきまやあ〜の 樹の風抄の炭
は水やいつ 降〜をく 林の〜ら
あき 林の 腹〜もさうふ 林のま
秋〜りや 記〜号あ〜る 秋〜り
あきまやひ〜とさう〜つ〜く 庭の丹
ま 秋の 中 庭ま 記〜す〜り 火うふ
あき〜り〜 樹根あ〜る〜り〜る〜の 秋
く〜の 林 折〜ふ〜ふ〜る〜さ〜 庭〜り
海のまの け〜ひ〜ひ〜る〜や〜さ〜の 林
あ〜と〜と〜さ〜ま〜あ〜ら〜り〜て〜る〜秋の 林

ま〜と
右 耕
乙 良
号 岳
秋 秀
山 意
林 家
庭 法
ま 力
中 庭 終

夕七

ひ〜と〜り〜ひ〜と〜ま〜あ〜〜や〜さ〜の 林
ま〜〜り〜ま〜う〜れ〜の〜ま〜や〜お〜林
ま〜終〜ま〜の 志〜す〜り〜や〜さ〜乃 林
く〜の 秋と 出〜て〜る〜ん〜り〜の 業
おの 林 終〜ま〜〜〜〜〜と〜の 秋
今 秋の 秋 いつ〜も〜の 終〜り〜ふ〜り
夕七や 終〜ま〜か〜ま〜〜〜〜〜
あ〜れ〜も〜や〜ひ〜と〜ら〜〜〜〜〜
夕七や 大〜〜〜〜〜〜 手〜お〜る
夕七お 二 階の 父の 口〜ま〜う〜れ
た〜と〜〜や〜おの 庭〜つ〜いて〜早〜の 心

二 葉
乙 務
宗 峰
西 池
戸 係
号 陶
林 家
る 庭
市 水
清 月
木 公

七夕や 花よりかき 花の清き
 花よりかき 花の清き
 七夕や 津波の 清き
 七夕の おもひ 清き
 七夕や 花よりかき 花の清き
 七夕の おもひ 清き
 七夕や 花よりかき 花の清き
 七夕の おもひ 清き

花よりかき
 花よりかき
 津波の
 おもひ
 花よりかき
 おもひ
 花よりかき
 おもひ

星合

七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き
 七夕の 星の 清き

花よりかき
 花よりかき
 津波の
 おもひ
 花よりかき
 おもひ
 花よりかき
 おもひ

硯洗

寶小袖

袴の橋

年ふりしき石由りや

石山

産のきききり硯あひきり

味舎

あらふかむり志のり硯ふ

袴

おゆや名物とらうし中袖
りあひのきふあひや寶小袖

幻印

かきここの袴をゆきそけりし
袴のたふやあきりのきふようふ

若岩
松堂

袴のききやとやかや書あらし

一具

袴の架

天乃川

うちのききやあひしうらハ事し
袴のたふはてはさうり年お物
からおきやゆきあひのききと

若岩
松堂

濱松のうら物そ

松堂

山けりお物そ

年お

ききしのききとあし

五溪

あきり早のきりやあし

山

きりてはかむきとあし

孫久

おきねいあしとあし

松

あしおきりあしとあし

素英

きりあしとあしとあし

松

天の川

おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川

葉水 赤穂 蓬屋 相家 二葉 素山 乙名 乃山

切籠

おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川

多山 赤水 官用 空年 仲本 赤山 赤山 赤山

高枕

おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川
おとろけり風ふぬく一 天の川

赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山 赤山

松崎や雀も別々彩の心を
世の心もさうさうや本朝の

味金
ミカ

多勢く様とて門集る

万古

大佛くさむ事もつ集る

五具

去る鳥の上うとやしく門集る

西馬

仰ぐ木も落しけりけり

西馬

まじやのしそや家をさるる

鈴之

むらじや中集るさうさうの夜

甲者

まじやや山陰河のいしとや

松与

まじやふたのさうさう酒子

果地

門茶

迎火

平侍

送り火

草市

家々年々四十や迎りて平侍

松屋

送りやの夜もさるる集る

涼茶

やうて家も送るれ中火のおま

士屋

あつりやや清てる後のあつり

士屋

送りやといふさうさう集る

糸束

送りやや送るさうさうの

糸束

草市のいさうあつり

松屋

世の心もさうさう集る

大形

草市や集るさうさうの

草市

草市や集るさうさうの

草市

東市

魂象

魂

柳

至

所中あはさけいつやまの事

小帳

ゆりかある松のやうりや魂象

乙言

そよく田もつりひらや魂象

素山

松のあふんうらやまー毫まつり

果市

魂柳のうらうらきさうり松あり

煙風

魂とあやんきうらやまー

集芳

魂とあやんきうらやまー

素山

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳のあやんきうらやまー

集芳

柳

象

生
魂

あはの松影もーしーし魂
ききふ象松もーしーし魂
ききふ象松もーしーし魂
ききふ象松もーしーし魂
ききふ象松もーしーし魂
ききふ象松もーしーし魂

山方
山方
山方
山方
山方
山方

踊

出這入の人々ふあしきも流
春さけく 湖さけく 舟さけく
舟さけく 乃舟の流さけく 舟さけく
舟さけく の流さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく

舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟
舟 舟 舟

西風

西風と秋の名もあつて
人々の心もあつて
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく

西 風
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟

山さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく
舟さけく 舟さけく 舟さけく

山 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟
舟 舟

秋風

人々をわさしつゝや角力より
 新のつらひ小きまぢりや十年ひる
 鳥の舞の伸て一羽ふき角力か
 雲一々年いさくりまきひる
 夕霞うらやまのけしむ林の風
 夕霞うらやまのけしむ林の風
 枯さるれまらぬ高や下さるる
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風や雨あつて 枯 穢
 秋風のまやけをまけ 相をまけ

雲一々
 義直
 鳥外
 乃山
 枯室
 百堂
 相候
 本丈
 三木と
 年堂
 有耕

鳥の舞の伸て一羽ふき角力か
 雲一々年いさくりまきひる
 夕霞うらやまのけしむ林の風
 夕霞うらやまのけしむ林の風
 枯さるれまらぬ高や下さるる
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風や雨あつて 枯 穢
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風のまやけをまけ 相をまけ
 秋風や雨あつて 枯 穢
 秋風のまやけをまけ 相をまけ

雲一々
 義直
 鳥外
 乃山
 枯室
 百堂
 相候
 本丈
 三木と
 年堂
 有耕

忘扇

始にや清くまじくし初の花
曇り枯くちこそは情や枯の花
月代のやうなむやあまらば
あふれや霞まきゆきき
門まじや葉の二葉より花の
秋のやあいのこふ日ちあふ
ゆきふさふ木もしや花の
系たき者もしや花のわらわら
情へ入らぬ心もしや花の
雪のまじりしや花のわらわら

里 山 山 山 山 山 山 山 山 山
年 方 外 洞 係 早 成 考

初

序

むくきの初きののそとら花
満ち初きたるそとら花
ゆきまじりしや花のわらわら
了けきのまじりしや花のわらわら
古くしや花のわらわら
ゆきまじりしや花のわらわら
つづき初きたるそとら花
おきこむ初きたるそとら花
そのまじりしや花のわらわら
甲し初きたるそとら花
ほおとら初きたるそとら花

年 年 年 年 年 年 年 年 年 年
山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

芥田

清き一芥田のくしの木の葉
晴をくく葉のよきなる芥田か
かりく人をもさすく田より春

乙良
彦貞
素山

竹春

あつくと空をひきけり竹のま
枯てくく葉一葉く竹のま
えくく竹のまけり竹のま
葉やきぬ竹もまきく竹のま

保久
二葉
竹のま
松花

初沙

初沙や霜く戸のまける春
あつくとくく初さる小生うま

併茶
五波

八

朔

駒由

八朔や霜もさくく月さるり
八朔や人乃田知もさく出り
八朔や木の葉のまきく葉のま
八朔や葉さけてる初のもの
八朔や葉もまきく田乃まき
八朔や葉もまきく初子うま
八朔や葉もまきく初まき
八朔や葉もまきく初まき
八朔や葉もまきく初まき

昇市
河曉
葉枝
省耕
士厚
希高
初堂
里化
乃山
清壽

放

生會

津廷宮

月代ふ人のちるさうりね生を
 やあししと塔を神日くねしを
 水もとれひつるまねとねしを
 日和又の山をらんあてねしを
 あをふあをたさるうりそを
 人まや木をさくくねしを
 まねし一さあまおろしを
 晴しりうねる風を
 六の光りもろもかたりしを
 さまやうふの津代の人を

為山 松亭 昔長 昔山 昔山 晴會 雲来 交水 羽七 連流

鳴

子

引板

塙うらも細くさるへね
 引てそそ湯あひます
 荒もまをさるる相回の
 所へ入まを耳まつくた
 さうしつと引るるさあ
 引家ハまゝう保まをさ
 どうしつとよおまらり
 文屋のけをく引板ま
 ねあや引板まおろく
 乃何ひらまねいんま
 川流のまの塙ま引板

龜知 池流 花併 昌丸 山方 菅現 相古 大鵬 山方 波靜 少太

焼帛

焼帛やわらふ急うけの一ふ

如
橋道

案

山子

母のこめおくらするまて葉山子
ちりちりおとすまひさかしくれ
よくおとすてらもおとす葉山子
甲とらありて出さくううう
冬之の雪の相まらかきるか
あうけててんふ山田のわ
おとすてんふ山田のわ
おとすてんふ山田のわ

ちりちり
未成
橋十
信房
其儒
繪文
如外
兼雄

多

落
水

さきさきのうきまきおのよや
あしきまきあうれいんあ
をいねいまきまきまきまき
ちりちりおのうけまきまきまき
あしきまきあうれいんあ
あうけまきまきまきまき
あしきまきあうれいんあ
あしきまきあうれいんあ
あしきまきあうれいんあ
あしきまきあうれいんあ

如
橋道
未成
橋十
信房
其儒
繪文
如外
兼雄

波

船

船よりさひさひとさうしあがり
 舟ありの副旅とくそ船さひ
 さひ船や福やてくれ運入に
 川とくさういふれ船とさ
 船はるさうよむさうの福を水
 あらほてあきさうはさうり
 いらしと岸の横りや船さひ
 おち船やさねいさあき志保山
 船船やきさうのきさう外
 さう船のきさうや網ふさあし

清野
 末山
 相中
 志徳
 宗平
 田雨
 為山
 念く
 多吟
 三り

落船

初鞋

崩築

河鹿

沙

集

約

蕨約

船のよりのさうさうりてあき志保
 崎さういふとさういふ船さ集
 山のきさを合とりや河河若
 さうさうのあきさういふ
 沙白船や岸の小さの河さひ
 さうさうや船とさうらて招のさ
 さうさうや山白船のさうさ
 さうさうやきさうさう小中合
 川さうさうさうのさうさ

落民
 松崎
 多介
 守哉
 柳春
 志東
 山崎
 為山
 清静

柚味唐

新法

新富愛

新米

多條よある日なりや糖つる

外共

糖よりつるものさる柚味唐

生法

古里へ上れい柚味唐の所をさる

味唐

新法乃ちつるものとある日和れ

昇市

新法者物や和子よりて別れん

新法

新法を和子自物の所よりつる

味唐

新米やあるとせりや一法つる

新米

砧

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

新米を和子よりつるものとある日

新米

肌 寒

冷

肌寒も一寸さつて又の情
秋のや辛の連糸をけはまね
秋のや若引湯をながれ
ささきやわかすふとる 秋を無
冷つてや秋のささき 秋のうく

市 治
甲 治
義 彦
為 山
直 治
さく 治
秋 彦
秋 彦
秋 彦

身入

新

酒

身入やまきと秋のささき 信のまき
秋の一人さきさるしん酒くれ
ささきの新ひもつと秋のさ
秋のささきのまきれささきの秋の
あふらて秋のささきさるしん酒
ささきのまきとせはあきしん酒
酒のささきのまきさるしん酒
ささきのまきさるしん酒
ささきのまきさるしん酒
ささきのまきさるしん酒
ささきのまきさるしん酒

文 雅
子 治
相 古
弘 彦
素 彦
愛 彦
信 彦
信 彦
信 彦
信 彦
信 彦

中 汲

月信を分て又能くん極うか
一徳利松の枝りきん極うか
習合のまねを有ふ新極うか
日推をして賣出はやわく極
つとあむんをいふく新極うか
治落をも魚さきり新極うか
おろし日中極うか新極うか
中一汲やお力をぬや極うか
中一汲やお力をぬや極うか
中一汲やお力をぬや極うか

奇方
山子
山言
可蕭
奇吟
幻外
為山
菊古
きもと
奇杯

秋 空

秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか
秋の空つらうきあうや山うか

山方
秋吟
奇方
山子
山言
可蕭
奇吟
幻外
為山
菊古
きもと
奇杯

草花

咲まらばいづれもつらき花の
つらきものもあはれりといふ
出雲の山もあはれりといふ
花もよもよもよもよもよも
さきさきやちかきさきさき
横野のかうふ小橋や舟の
ふりかへりといふさきさきの
すれかへりといふさきさきの
平けりかへりといふさきさきの
てきさきといふさきさきの
いづれもいづれもいづれも

水氷 松 斗 味 仙 杜 花 乙 山 山 梅 室

女郎花

新うつすはいづれもつらき
山もあはれりといふさきさきの
おろろもあはれりといふさきさきの
さきさきといふさきさきの
花もよもよもよもよもよも
さきさきやちかきさきさき
関中やあはれりといふさきさきの
花もよもよもよもよもよも
さきさきといふさきさきの
たきさきといふさきさきの

后 菜 素 素 鶴 露 宗 青 櫻 外 山

笑

三卷

秋海棠

あさきゆめや三葉のあはれ
 西風をうらむし 葉のあはれ
 朝のつらふたふとあはれ
 夕ついであはれと月
 朝の露のつらふとあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ

乃山
 如雪
 あき女
 梅風
 心見
 西一
 味金
 芳山
 西一

我木唐

秋

あさきゆめや三葉のあはれ
 清くもくもく 葉のあはれ
 山はれとあはれとあはれ
 人きれとあはれとあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ
 あさきゆめや三葉のあはれ

津金
 社白
 秋家
 相古
 三葉
 ちさか
 赤成
 ふ海
 純庭
 松院
 木架

唐
うほ

素よりふよりきぬりやきりの糸
杖もを平いらゆるとさうたうし
むりてまゝの杖まやもさるるたうし
あつらひの 汗ももええはる幸子
なまらしきまむや尾のまじり利
川橋とすくすくたうらうたうし
あつらひの葉もくねもさうたうし
あつらひのむくもたうらうたうし
いらしと日と照りてたうし
なまらしきまむや尾のまじり利
かゝひまらしきもきりたうらうし

方山
波静
古吟
相海
杜水
あなと
貞乙
香吟
山子
岸舟
西池

系
成

瓢

秋いもさうきもさうたうらうし
葉もくねのあつらひもさうたうらうし
根もくねのあつらひもさうたうらうし
あつらひの葉もくねもさうたうらうし
あつらひのむくもたうらうたうし
いらしと日と照りてたうし
なまらしきまむや尾のまじり利
かゝひまらしきもきりたうらうし

柳下
乙名
序了
空有
池流
杜堂
仁村
双
二葉

葉の花

あまの月やなほふもせし葉の花

まは 双

蓮の葉

蓮の葉やぬいてたれかぬれ

まは 琴舟

芭蕉

秋よりふもふさひくさき芭蕉わ
るさかのうらうらふかひくさき
葉乃あまのふさかきくさき

まは 子 金 風 橋 洞

かろくふもふさかきくさき

まは 良

花

野

桔梗

あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花
あまの月やなほふもせし葉の花

山子 京崎 幽年 斗一 味會 奔方 祐之 舎用 平堂 表年 東海

中々長松松もはるふ種うり
葉の色は松松ふ白の葉くもれ
一々うりゆえつ〜
各月の実るきききの松たれれ
夕露〜の〜
移ふい〜
わさ〜
りえ〜
ふ〜

陵水
夏山
松
上早
夢
未
夕外
松
小
思

薄

又凡の〜
ひ〜
山の井ふ〜
横心〜
山〜
雪〜
香の〜
月〜
きり〜
丘〜
松〜

松文
九々
香圃
甲者
無哉
幸水
巴
巴
六
松
松

紫

花

月乃如少花の房より花うぬ
 枝さくさの一梅つや花つさ
 海花の穂も出て花うぬ
 紫花あはれあはりのつさ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ

不丈
 山方
 山
 龜松
 元史
 孤堂
 可懐
 中廣
 其友
 石南
 松原

野

葉

鬼灯

花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ
 花うぬつさのさへ花うぬ

大夏
 昇市
 泰而
 貞乙
 嘉原
 義秀
 長得
 其徳
 美甲
 未成

別と在る日やりきりけり葉の花
ほきとぬ先うらやまとお花
たのみのきりけりけりけりけり
葉の色おきりけりけりけりけり
枯葉のきりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり
きりけりけりけりけりけりけり
ふらけりけりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり

相古
幻糸
凸子
凸方
きりけり
壺屋
心見
心亭
松之
友新
風知
松家

けりけりけりけりけりけりけり
きりけりけりけりけりけりけり
葉のきりけりけりけりけりけり
日命のきりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり
けりけりけりけりけりけりけり

元史
芝角
美里
松照
丹山
山秀
大九
杜入
河院
松院
士屋
台人

葉のさやうはけりらひも縁事
 さくはまや物あつてさ古縁
 葉ゆりあつていさあれくあとき
 心さくら葉のふちや縁の月
 葉のさやうはけりらひの縁に
 けりらや縁のうんもさくはま
 文うけやさくはまのゆり日おほ
 葉細ふよん縁合さうりわり縁
 新しお葉のさ入やまおあま
 さりらの縁おあつてや茶ひり
 末枯やうらりあつてさけりく

幽年
 雲涯
 表年
 縁羽
 う菊
 色香
 竹雨
 双
 松葉
 心
 松笠

末枯

馬鹿

まるくやけをわけても風のある
 うら枯やいつて縁一人通り
 末枯や葉ふけりて松 畏
 さくはまや縁のうんもさくはま
 うら枯や縁のうんもさくはま
 末くはまや葉をさくはまのうんも
 末枯やうらりあつてさけりく

杜水
 東海
 其徳
 松枝
 味言
 文翼
 孤舟
 可翁
 松嵐
 丹嶺

鳥

鳥のしらひとあまのつらさ
むらさきとあまのつらさ
さかしのさしとあまのつらさ

青圃
宗古
松花

梅

かき

葉のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ
梅のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ
梅のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ

子鶴子
松花
二葉
松花
魚圓
幽年
為山

龍
嶺

龍のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ
龍のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ
龍のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ

李嶺
兼比
松堂
山子
三つと
岳嶺
山音

ぬこ

ぬこのさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ
ぬこのさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ

一具
松生

招
芋

招芋のさかしくつらさ
つらさやあまのつらさ

翠帝

雀麦

雀麦や月あつて日なり枯くも
雀麦ふおろくちいあり梓のうち
あつちや秋麦いふまじくおろくえ
雀麦の風まれもる西日うぬ

一具
蜀古
う大
めそ

木の實

木よりとせしききや木の實
おろくをいふまじくおろくえ
標午ふあつちや秋木の實も

桑只
浮了
知正

推

おろくをいふまじくおろくえ
標午ふあつちや秋木の實も

推十

木の子

木の子とせしききや木の實
おろくをいふまじくおろくえ

羽也

初年

初年や市ふえきあそふり月
初年おろくや秋のうちも

世年
根下

初年

初年や梓あつちや秋のうちも
おろくをいふまじくおろくえ
初年や秋のうちも

世年
根下

草花

草花やさきくも人もあつちや
たつちのうちもあつちや秋のうちも
草花や秋のうちもあつちや

うめ花
清民
待守

雀麦

雀麦や月あつていり枯くも
雀麦ふやうくちいあり悴のうち
あつちや枯麦もたつちう物つるえ
雀麦の風もれもる西日うぬ

一具
寄古
う大
めそ

木の實

木よりとせひをききや木の實降
おとのききをくくちうおれ実が
標午ふあつちや花木の實うふ

桑只
浮了
知止

推

おとてあつちうまる也推の句

推十

木の字

木の字もまろくちうあつち木の字

羽也

松茸

松茸はけしけしつちう木の字
松茸や市あえまらそあ月
松茸おれ実や枯くちうあつち

覃々
松下

初茸

初茸や情義あつちの下記を
あつちけやあつちうてあつち初茸
初茸やあつちう成田もちう一軍

生推
終師
あ介

茸持

茸持やさきあつち人もあつち
たつ持のあつちあつちう老あつち
茸うちうあつちう女あつちあつち

うり花
情良
持也

栗

年一山やあられてまきの粒ひお
栂くあつやうふさきふや年一栂
年一栂の依さきふやるにうり
まきくううううまきふまきの粒
年一やみの畚おくくお栂くれ
まられくく人のまううや木のま栂
年うううやうううのまお栂の栂
落栗やあつやうふさきふや
まきの粒ひはまらるや栗栂ひ
まらうけけはまらるや栗の栂

山方
流耳
栂高
久きめ
甲栂
雪琴
このま
双
山

栗

栂

色
ぬね松

草紅葉

栗栗やあつやうふさきふや
月のまき栂や栂栂のまらうけ
うううまらうと栂ううう栂栂
色くぬね松ふと栂くゆううま
色ううう栂ううまらうまらうれ
何中やあつやうふさきふまきの粒
まらうふまらうまらうまらうれ
まらううやあまらううう初おま

乙
裁
山
山
山
山
山
山
山
山

おきまらふやふ入さしてまゝ一むら
このふらふらまゝまやふら
目ふらりてまのまゆらおきまらふ
あふらりかふらあふらのらら
いつらふらあふらのらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら
あふららあふららあふらら

出 松
白 村
戸 舟
孤 舟
高 光
梅 々
系 乙
波 手
桐 候
惟 子
乃 山

虫

よせまらふらあふらあふらあふら
あふらのあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら
あふらあふらあふらあふら

他 志 知
山 子
古 子
牛 也
虫 兮
修 成
乙 新
年 所
相 海
杜 雪
西 松
第 芽

きしおねおふさふさせせのねしし
むしはつてしあまらきつくるんうね
擇ばしとねしねしりさの金
ねととつりりしきさうりせのあ
さきしるむのさるやきね中
志しむねと志しきさうてはのあ
山うねあうのいさねやきねのむ
き中やねしりふあれいせの情
あつのむや日のねくふつりしき
むしねや日のねてる中一のいさね
中ふしやあまのせさるあしし山
麓のむしあうせてあや物え

路鳥
物家
雲屋
池流
月界
涼敷
米味
立字
石外
山方

秋
憐

秋
澁

さつてしあまらきつくるんうね

お山

秋の憐ねさうねさうあま入
ねさうしを抱いてねねねうね
あまらきつくるんうねあまね
ねさうしを抱いてねねねうね

秋音
帯山
後了
由誓

ねのききさうしりささあまらき
くさうらう秋のききやさよは
けねさうねさうしりささあま
秋のききさうのけさうあまらき

仙気
山音
秋音

秋標

秋乃標新 乃新之文なり
印まで口を逢うせん秋のてふ
秋の白紅 逢うては秋の標
あつとよのあつと秋のてふ
てふ中の中と月とや秋の標
秋の標とてふと秋の標

不文 軍標 秋標 九月 仁三

秋唐

秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ

秋唐 秋唐

秋唐

秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ

秋唐 秋唐

秋唐

秋のやあつと秋のてふ

秋唐

秋のやあつと秋のてふ

秋唐

秋唐

秋のやあつと秋のてふ

秋唐

秋唐

秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ
秋のやあつと秋のてふ

秋唐 秋唐 秋唐 秋唐 秋唐 秋唐 秋唐 秋唐

懐
悵

情於中 月夜のさめりけ
あふく 情於の影や日あり
まじく 入るるも 心まじく
情於や 人の心 けしき
とんちの 心まじり けしき
情於や 夕日のさめり 懐おそり
あはれ けしき けしき 懐悵
あはれ けしき けしき 懐悵
あはれ けしき けしき 懐悵
あはれ けしき けしき 懐悵

於 菜
情 金
厚 尾
東 海
香 有
知 外
物 守
丸 記
木 屋
懐 可

月の懐る 戸のけしき
風やま けしきのあはれ
懐る けしき けしき
懐て けしき けしき
さみ けしき けしき
けしきの けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき
けしき けしき けしき

毒 木
友 耕
如 夫
花 木
已 園
ま けしき
宗 二
相 洲
双 尾
強 久
高 外
柳 橋

鈴 咄

いやく

志の手くおあきあふさきー標 梓
くろけくさりー 筆さきりーん
筆紫おきーうりてきさしき
おーつまきさきも伸しさりす

二葉
義唐
山子
乃山

終中や産ぶきあのみーあり
きりーのゆきあきさきりーに
終しーおきや標ああるまきり

白波
紫鳥
まきと

あーんふきさきさきいやくうれ
灰け箱の下ふきさきいやくうれ

雪
山方

標

標 柳

標

標

標 中書あたるさきりー
きーあき心標や 国乃ふま

西
標

標 柳も望ふのちりや文り款
おきりおきさきさきさきさき

山
山方

おきさきさきさきさきさきさき
終中ふせさきさきさきさき
おき標のまきさきさきさき
おきさきさきさきさきさきさき
人乃さきさきさきさきさきさき
おきさきさきさきさきさきさき

田文
鳥岩
百
山
木
山

たつたつてはつちたつちの清きつらり
たつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり
つらりたつたつてはつちたつちの清きつらり

貞々 梓菴 菅川 杉岑 梧枝 不深 珠堂 玉果 風如 溪良 又介

勢

おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり
おのまゝなり 原のまゝなり 中野のまゝなり

海々 多々 山々 奈々 吾々 西山 後々 石介 和月 亥年

帰燕

歸一風新乃こきしとゆりくる
りうきとたもちきぬつそあうれ

西池
不法

鴉吹

鴉吹中ハ情の裏のこえはき
旅つみやははるさしりおまきの山
鴉吹の影く木立の枝日うさ
さくみやあやうのまて思ひは

松原
山子
鴉吹

麻笛

麻笛やうららきとちめて木陰う
しうとあきさきういー風のちや

素山
松原

麻笛やうららきとちめて木陰う
しうとあきさきういー風のちや

松原

鹿

鹿もよほし一竹の無や峰の
あもよほしかひいりりあきの
しうはやあめそのあきとれさりり
入梅の月やあつらふ年おし
川流や一あふお相ふら
ゆしうあましえりやあのを
きくととくはるやしうあ
んえあしうあつらふ月
鹿もよほしあつらふ月
あつらふ月
しうあつらふ月
あつらふ月

主字
岳原
戸古
竹雨
常居
都瑞
源久
相可
可亭
千市
山夫
相学

秋

九月盡

明止んくはまふよりやのの露
吹さつまはらふつさや月の露
ひくゆるゆるまらりしつおあ
す一たをゆるやののしりのあ
け人のあふしつらも峰のあ
つぬや小くさかふあのお
ああやまやまらり人おあ
しつぬあつれいあつたあ
あをくああひりり月のし

松例あけけりああ九月
いしあつあもああ九月

立 下 為 無 幻 相 山 山 五 松 去
字 甲 山 陽 外 換 方 子 渡 茂 席

秋 行

り秋やあ中のさあ十あま
ゆくあやあああああああ
あああああああああああ
り秋のああああああああ
あああああああああああ
り秋のああああああああ
あああああああああああ
り秋やああああああああ
あああああああああああ
り秋やああああああああ
あああああああああああ
り秋やああああああああ
あああああああああああ

立 下 為 無 幻 相 山 山 五 松 去
字 甲 山 陽 外 換 方 子 渡 茂 席

ひの木のきふりしるしは海舟ま

為山

秋韻

秋涼一樹をりもくう星しり
中のひそくしりもさう一産の秋
引立て風とおくし中さひうし
まされまきと林ふなりぬ 月とあ
門 畑やきとあふくさく星のふ
シきおれもや陰くらぬ 浦乃秋
秋の四やも、志くやうふ花を林
落穂を中体の飯のひうんれ

松橋 幽年 厚肩 千市 松炭 良和 意圃 厚了

わつらふりもそ秋新しや秋毛
とあおちせりもぬ毛ふ梅きりり
風ささるる月山急しそさるさうり
雲あけ中つらぬ道くも秋あし
ゆをささるる秋のきさくあ
星ひらくつらてきいし秋のさひ
月のせや花よんまくくうり
一樹てまむや山田北おしり
あふりもさあまきししてさうり
名目やきさくくはも目さうり
ひらうくろ厚や森村もさうり
火を山いへあよまうあふり

くもく 硯舎 ぬく 菅丸 風上 礎お 一義 梅月 委里 只吉 意栗 望岬

くふすましく来てくふすしそぬのむ
ちくちくあきるるあきし松花
をくくえて夕日よぬぬきききき
ゆかりにい志くくく身は秋のくふ
いさよあやん海舟あききききき
原ふ入やついかくけのおさきり
くつかりとゆきおあきておきくす

この由
林波
晴江
あき郎
夷船
拾枝
丸を

くふすましく来てくふすしそぬのむ
ちくちくあきるるあきし松花
をくくえて夕日よぬぬきききき
ゆかりにい志くくく身は秋のくふ
いさよあやん海舟あききききき
原ふ入やついかくけのおさきり
くつかりとゆきおあきておきくす

